

# 大阪ことば

～ 大阪人の暮らしの文化を育み、伝えるコミュニケーションツール

## 船場の暮らしとことば

ひとくちに大阪ことばといっても、その範囲はとても広いものになります。そんな中、大阪の中心部「船場」で使われていた、船場ことばの特徴とはどんなものでしょう。「わがまちガイドナビ」の公開イベントにおいて、近江晴子さんが話されたことを中心にご紹介します。船場育ちの近江晴子さんは、雑誌『大阪人』で「大阪ことばを語りつく」という連載を監修（単行本になっています）、現在は大阪天満宮文化研究所の研究員を務めておられます。

## 船場ことばは船場の暮らしが育んだ

「近江でございます。どうぞよろしゅう」と話をはじめられた近江晴子さん。その居ずまい、話しぶりから古きよき船場を体現されているようで、満座の聴衆をグッと引きつけました。



近江晴子さん  
船場の町々は、各町内に必ず町会所が設けられ、町内の管理がきっちり行われていた「お町内共同体」やっただです。その町内の家々では、主人家族と、番頭さんや丁稚さん、女中さんたちもひとつ屋根の下で暮らしていました。家の中でも、外に出ても、いつも誰かの目があります。町内では、それぞれの家の暮らし向きもすべて知られている中で様々なおつきあいがあり、家の格に応じて年中行事をきちんと行いました。

その結果、発達してきたのが豊富な敬語や丁寧表現です。ダンサン(旦那さん)、ゴリヨサン(御寮人さん・奥さん)、トオサン(イトサンから？ 嬢さん)、姉妹2人ときは、下の娘さんをコイサン(コイトサン)、姉妹3人では、次女をナカサン(ナカイトサン)、三女

## そもそも大阪ことばとは？

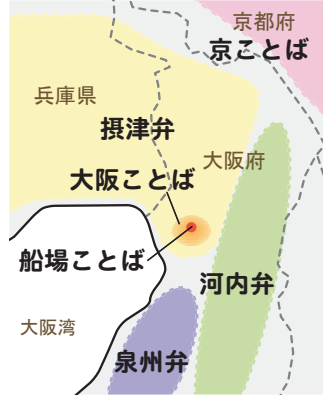
「大阪ことば」は、江戸時代の大阪の町で話されていたことばが土台です。そもそも大阪の町は、摂津国難波大阪です。明治になって、大阪府をつくったとき、摂津国を分断した上に、河内国と和泉国が合体したのです。作家・今東光さんの小説には鮮やかな河内弁がいきいきと描かれていたように、河内も泉州も独自の言葉遣いを発達させてきました。また、京都をはじめとする各地の商人が行き来していた商都でもあり、人や物といっしょに各地の言葉も盛んに行き来していたことは想像に難くありません。「江戸のはじめに、伏見の人々が大阪の船場へ移住してきておられますので、船場ことばの土台には確かに京の言葉があります。そ



をコイサンとといった家族の呼称から、オスモジ(寿司)、オカキ(かき餅)、オセン(煎餅)、オミヤ(御御足おみあし)といった、女房ことばを受け継ぐ呼び名まで。「お商売してはるおうちが多かったですから、話す相手はお客さんです。相手に気を遣って、相手を立てて立てて言う言葉を使いました。船場ことばというのは、お商売とお付き合いで練り上げられてきた言葉なんですわ」と近江さん。

なお、この日の会場となったのは、北浜の地で、185年以上続く料亭「花外楼」。その現在の女将、徳光正子さんからもこんな声があがりました。「やっぱりお商売の世界が根本にありますから、品のある言葉で相手のことを思う温かさや優しさがあるものだと思います。たとえ怒っていても、やんわりしますわ」。町の成り立ちと暮らしから育まれてきた「船場ことば」に宿る人の温かみ。たとえば、近江さんの記憶によく残っているという「おはようおかえり」「よろしゅ(う)おあがり」といった表現は、今でもとても自然で、耳に心地よく響きます。

れが何百年と生活が続くうちに、京ことばをしつかり吸収して、大阪ことばが育っていったと思いが、近江晴子さん。大阪ことばを含む摂津弁と、河内弁、泉州弁…かつてその違いは顕著でしたが、今ではひとまとめに大阪弁とされています。この冊子では、話し言葉だけでなく、単語や表現もふくめて「大阪ことば」としてご紹介しています。



## 文学にみる大阪ことば

独特の表現と言ひ回しを持つ大阪ことば。ことばに敏感な作家たちも、大阪ことばならではのコミュニケーションや表現を小説の世界で表してきました。かつての大阪の暮らしの風景が目に浮かぶような文学作品をいくつかご紹介します。

●『細雪』谷崎潤一郎  
「雪子今降りて来やうけど、よう分ってくれて、もうちゃんと承知してやすさかいに、叔母ちゃんからは何もその話せんと置いとくれやす」  
主な舞台は阪神間だが、船場の旧家で生まれ育った4人姉妹が主人公。失われゆく船場文化が描かれた。

●『花のれん』山崎豊子  
「え、この季節にお留守一、大阪の商人いうたら、年中妾宅(しょうたく)住まいしてはる道楽者の旦那はんでも、大事な季節にはちゃんと支払い台の前へ坐るもんやと聞いてますのに、一体、どこへいはりましたんどう？」

「朝、銀行に金策に行くいうて出たまま、何処へ行きはったのかさっぱりわかれ致しまへんのでー」

船場の御寮人(ごりょん)さんと集金に来た京都商人のやりとり。御寮人さんのモデルは吉本興業創始者の吉本せい。

●『俄 浪華遊侠伝』司馬遼太郎  
「なんということもない。歩いていて、ふとよい思案を思いついた。その祝い酒や」「祝い酒なら、家に帰ってから飲まはったらよろしいのに」「おれは町内育ちの人間や。気持が浮きまうまきてきたときにくすぶった家へ帰れるかい」「くすぶった家で悪うおましたな」  
大阪に生まれ育ち、国民的な作家となった司馬遼太郎による、維新前後の大坂を舞台にした小説。鳥羽伏見の戦いの後、炎上する大坂城の様子も臨場感をもって描かれている。

わがまちガイドナビ vol.7 参照

だんさん、ごりょんさん…船場ことばや、船場ことばを次の世代へ残す活動、カルタで伝える「なにわいるはかるた」の紹介など、船場については、わがまちガイドナビ vol.7でも詳しく紹介しています！

## 大阪のはなしことば

トークイベント「大阪ことばと庶民の暮らし」では、関西芸術座の松寺千恵美さんにもお話しいただきました。松寺さんは、女優業のかたわら、NHK 朝の連続テレビ小説の「大阪ことば指導」も担当されています。学者や研究者ではなく、実践的なことばの指導をされてきた立場から気づいた、大阪ことばの例やエピソードを教わりました。

## 大阪のはなしことばにおける敬語、丁寧語

大阪ことばは、その特徴的な響きからでしょうか、全国的にもよく知られています。ただ、その過程において、過剰なステレオタイプ化が進むことも多く、70年代に流行した『河内のオッサンの唄』をはじめ、映画やテレビ、マンガの世界、そして、たびたびの漫オブームなどから、大阪ことば＝品がないというイメージが今なお根づいています。2015年の下半期に放映された朝ドラ『あさが来た』は、明治期の大阪の商家が舞台になっていましたが、松寺さんはこのドラマで「大阪ことば指導」を依頼されました。「依頼を受けたときをお願いされたのは、きれいに聞こえる言葉遣いを狙っていたということでした。それが本当にうれしかったんですね。私も大阪弁って汚いものじゃないって常々思ってたましたから」と松寺さん。

## 母音に特徴あり

活字でここに書いて伝えるのが困難なことです。大阪弁は音の長短、高低、リズムによってもニュアンスを伝えています。わかりやすいところでは、母音を引き伸ばします。目を「メェ」、手を「テェ」などと！音の語で母音が伸びます。「早よ寝や〜」「嬉しくて」といった言葉遣いのように、伸ばされた母音にニュアンスが変化します。こうした母音のトーンや長さを使い分けることで、大阪の話し言葉は、とても表情豊かなものになっています。

## 朝ドラに学ぶ？！大阪ことば

NHK による朝の連続テレビ小説には大阪を舞台にしたドラマが少なくありません。近年も、岸和田を舞台にした『カーネーション』、大阪の食をテーマにした『ごちそうさん』、上方落語の世界を描いた『ちりとてちん』など。そうしたドラマに出演する役者さんは、必ずしも大阪出身者ではありませんから、松寺さんのような「大阪ことば指導」のスタッフが参加することになります。本番までに、できた台本を大阪ことばに書き換えて、お手本となるよう、セリフの発音をすべて吹き込んで役者

大阪弁が品のないものだという印象を持たれている方もいるかもしれませんが、決してそうではありません。相手のことを思いやる大阪ことばは、やさしく、親しみのあることば。そして、大阪ことばを巧みに操る大阪人は、コミュニケーションの達人なのです。大阪の街が培ってきたことばに誇りを持って、やさしい大阪ことばをぜひお使いください。

## 大阪ことばを再発見

花外楼で行われたトークイベント「大阪ことばと庶民の暮らし」では、すでにご紹介した近江晴子さん、松寺千恵美さん、花外楼の徳光正子さんに、中央区未来わがまちフォーラム推進委員会委員長の伊藤弘一郎さんの4人によるパネルディスカッションが行われました。司会は、同推進委員会の委員で、なにわ名物開発研究会の野村育郎さんが務めました。

## 大阪ことばについて考える

松寺 『あさが来た』の中では、「いてさんじます」「おはようおかえり」というような言葉も結構使いましたけど、他にも「かんにん」というのは私が好きな大阪ことばです。お商売の人が「すみまへん」という気持ちで使うこともありますし、親しい人に「かんにんな」って言ったりするのめかいらしい。この「かいらしい」って言うのも好きな言葉なんですよ(笑)。

野村 伊藤さんは「かんにん」って女の人から言われてたんと違いますか。どうでしょう。

伊藤 ほんま、かんに(ん)してほしいですわ(笑)。僕は、東京オリンピックの頃に東京の浅草で勤めてたんですけど、電話をとって「まいど」「おおきに」って言うてしまうから、周りから変な顔されてました。大阪に戻って来たら、東京からクレームの電話があっても、「おまえとしゃべったたら怒る気にならん」って言われることもあって。大阪弁ってやわらかい話し方ですから、人を怒らせないような性質があるんちゃうかな。

徳光 大阪弁で話せばやんわりとして、キツくならないですよ。私たちもお商売ですから、人を傷つけるようなことは言わなかったですし、大阪の言葉は品のあるものだと思います。この街の相手を思う温かさ、優しい前の人と会話するなかで、微妙なニュアンスが変化してくる会話に耳をすましてみてはいかがでしょうか。



松寺千恵美さん

近江 私の思い出ですけど、とにかく家族の会話がおもしろうてしょうがなかったんです。上に兄が3人おりまして、私は

## 大阪ことばから学ぶこと

大阪ことばの達人たちのお話を伺っていると、大阪ことばがもたらすコミュニケーションの円滑さ、人との親しみのある距離感が自然と身につくことを教わりました。意識的に大阪ことばを使っていくことは、き

と大阪の街を楽しく暮らすコツでもあるに違いありません。



## 「大阪ことばと庶民の暮らし」花外楼レポート

当日のようすは、新聞記事としても紹介されました！



2017年12月5日(火)、水辺を見渡す北浜の料亭、花外楼にて、中央区未来わがまちフォーラム推進委員会の企画によるトークイベント「大阪ことばと庶民の暮らし〜今何を伝えるか」を開催し、68名の区民が参加しました。船場大阪の暮らしを語り継ぐ、大阪天満宮文化研究所研究員の近江晴子さん、女優でNHK朝の連続テレビ小説で方言指導をされ、ご活躍中の松寺千恵美さん、今回トークイベントの企画にご賛同いただき、会場をご提供いただいた花外楼の女将徳光正子さんの3名による講演と、中央区未来わがまちフォーラム推進委員の野村さん司会

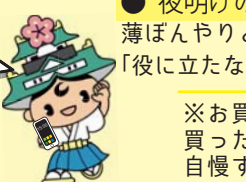


## 今からでも使いたい大阪ことば集！

大阪のまちなかで日常的に耳にする大阪ことば。そして、使ってほしい大阪ことばをご紹介します。右図/大阪ことばが描かれた看板(天神橋筋2丁目)

- 【まいど！】… 商売人からの出会いの挨拶例) まいど、おおきに！
- 【おおきに！】… ありがとう
- 【かんにん】… ごめん
- 【お早ようおかえり】… 行ってらっしゃい
- 【よろしゅうおあがり】… (食事後)のおまつさまでした【ちよびつと】… ちよびつり、少し
- 【～しはる】… (敬語)～しなさる(※身内にも使う)
- 【勉強して】… 値引きすること、安く売ること
- 【難儀(なんぎ)】… 困難、わずらわしい 例) 難儀やなあ

スマートフォンや携帯電話等で左の二次元コードを読み取ってネ！  
近江晴子さんと松寺千恵美さんの大阪ことばが聞けるよ！  
<http://www.city.osaka.lg.jp/chuo/page/000042725.html>



## 大阪しゃれことば

「五合徳利やな」って言われても、頭に？マークが浮かぶばかりかもしれませんが、これは大阪で発達してきたシャレことば。意味をたぐっていけば、ダジャレから生まれているので、決して難しい語ではありません。といっても、こうした日常的な機転が、大阪人の商売における「利動(りかん)＝損得に敏感なこと」に通じていたのでしょう。

- 赤子の行水(あかごのぎょうすい)  
赤ちゃんか鹽(たらい)で泣いているところから、「お金が足らいで(足らずに)泣いてる」→「資金不足」の意味
- 五合徳利(ごんごうとっくり)  
一升の酒を入れることはできないことから、「一升詰まらない」→「生つまらない」→「全然面白くない」の意味
- 夏の蛤(なつのはまぐり)  
蛤の身が腐っても、貝殻は腐らないことから、「身腐って貝腐らん」→「見くさって、買いくさりらん」→「見るばかりで買わない」客の意味

● 夜明けの行燈(よあけのあんどん)  
薄ぼんやりとしているところから、「ぼーっとしている」→「役に立たない」の意味

※お買い物をした後、大阪人はどれだけ安く買ったか？東京人はどれだけ高く買ったか？を自慢する人が多いとか？！(推進委員談)